

# あのときの常呂・写真館

VOL 62

(1977年)

昭和52年2月11-13日

## 第1回雪んこまつり開催

▶「雪んこまつり」が始まるきっかけを『常呂町民憲章推進協議会20年のあゆみ』が、次のように紹介しています。「…この雪んこまつりが誕生したのは、ごく単純な発想であった。昭和51年冬に開催した文化連盟役員会の時である。会議終了後、中台泰士会長宅で酒の席となり、いろいろな話がされた。そのとき、一人の役員から「冬に子どもたちのお祭りがあってもいいのではないだろうか。どうしても冬期間は家の中に閉じこもりがちで、一日くらい外に出て雪の中で遊んでもいいのではないだろうか。それも大人が子どもたちのために遊び場を作ってやってもいいのではないか」という提案があった。名称も「雪んこまつり」と子どもたち主役の名前にしたのである。」



\*上：馬そりに乗って楽しむ子どもたち

▶常呂町文化連盟が中心となり、さまざまな団体に関わる実行委員会形式の「雪んこまつり」は、その後、前夜祭が加わり内容を充実させ、昭和58年から町民憲章推進協議会の事業に移行します。ジャンボ滑り台や雪の夜の野外映画会、冬の花火、雪像コンテストなど趣向を凝らしたプログラムを行ってきました。

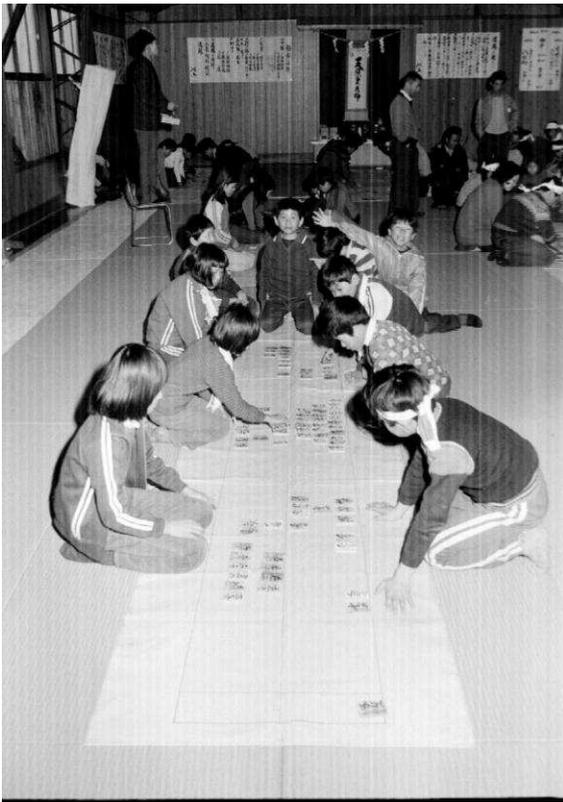
▶現在は、子どもの数の減少や実行委員会を支えるサークルの減少などにより、規模や内容を変えながらも地域の行事として継続しています。

雪中運動会の騎馬戦



かまくらの中で甘酒を飲む子どもたち





上：武道館で行った下の句  
カルタ大会



上：かき島太鼓の太鼓演奏



右・下：背中運動会のミカン拾い



\* 次ページ以降、文化連盟機関紙「にいばり13号」と「広報ところ 3月号」を添付  
第1回雪んこまつりのようすや内容が分かります。





**凝視** 武道館がゆれた。15チーム参加の子どもカルタ大会。



**すべる** 寒気を破りながら走る。父さんの声援がきこえた。



# 高らかに雪のロマン 冬は友だち



いま新たな祭が……

雪と流水に覆われて、とかく暗いイメージばかりが先行しがちな常呂の冬。寒さなんか吹き飛ばし、冬と友だちになろうーと、今年初めて催された「雪んこ祭」文化連盟やスケート協会、子ども会、ライオンズクラブなど、たくさんさんの自主団体が、二月十一日からの三日間を多彩な行事で盛り上げた。主会場の町民センターなどに集まった町民は、のべ二千人以上にのぼった。

馬そりが走る、かまくらの中で熱いしぼりたて牛乳を飲む、雪中運動会で汗を流す、チビっ子のどを競う、かき島太鼓が鳴り響く、郷土の伝説を子ども達も演じる、雪にまつわるコーラスが舞う。住民自らが生み出した、新しい祭りが、高らかに雪のロマンを奏で続けた三日間。

**かまくら** 初めてみたかまくらの中であっつい牛乳をのむ。



**演じる** 小学生からおとなまでが何日も練習を続けた戯曲「大地」、音楽も子供たちの作曲だった。



**夢かける** ぼくらの夢をのせて走り続けた馬そり。鈴の音がずっと遠くまで響いていった。